

## 文教厚生常任委員会議会報告会実施報告書

開催日時	平成30年2月7日(水) 10時～11時30分	
開催場所	アスパア明石 8階 学習室801	
テーマ	更生支援について	
出席議員	班 長	辻本達也
	司 会 者	千住啓介
	記 録 者	尾倉あき子、絹川和之
	そ の 他	永井俊作、山崎雄史、深山昌明、尾仲利治(以上、文教厚生常任委員) 久枝陽一(議会活性化推進委員) 坂口光男
参加人数	明石市保護司会5名、明石地区更生保護女性会6名、 社会を明るくする運動明石地区推進委員会2名	
傍聴人数	2名	
報告内容	<b>議会報告</b> ・「更生支援の取り組み状況について」辻本文教厚生常任委員長	
主な意見・提言・要望と応答	<b>意見交換会</b> ・保護司会：条例の制定については、市民に理解、知ってもらおうという意味でも良いことだと思う。今まで一般市民の方々に積極的に啓発していく動きがなかった。条例ができて、保護司の仕事は今までと変わらない。守秘義務もあるため、なかなか難しいが、行政と社協などとの連携、情報交換も重要である。 ・保護司会：制定しようとしている条例のポイントは何か、議会の皆さん方が再犯防止としてのポイントについては、どのように考えているのかをお聞きしたい。 ・辻本委員長：市民への理解をどう進めていくかがポイントとなる。今後検討を具体的に進めていくが、1月から5月に条例検討会を行い、パブリックコメント、条例案をまとめて12月議会で提案されるという予定だが、その取り組みも市民の皆さんに知っていただくことで関心も持っていただけたらと思う。再犯防止で言うと、高齢者の万引きや窃盗を繰り返しているケースが多く、女性の割合が多いとの総務省データがある。身近なところで支援をしていけば再犯防止につながると思う。 ・絹川委員：犯罪をした人への継続的な支援、地域への市民への理解等現場で対応されている皆さんの意見を聞いて、議会としても条例の内容を検討していきたい。 ・保護司会：再犯防止の取り組みの中でポイントは就労支援であると思う。施設に長く入っていた人は、就職面接を受けても経歴に空白期間があり、それを説明できないので就労が難しい。そういうことを条例検討の中で上手く取り組んでいただきたい。	

- ・保護司会：協力雇用主の登録を増やさないといけないがそこが難しい。吹田市の取り組みは、市と保護司会が協定を結んで保護司会が推薦した人を市が直接雇用している。直接市民に関わる仕事ではないが役所も雇用している。そのことも検討いただきたい。保護司も高齢化しているので是非に若い人にも保護司になっていただきたい。
- ・辻本委員長：協力雇用主の登録は、明石市でどれだけあるのか。
- ・市職員：登録されている企業は、県で550、明石市では7企業であり、多くはない状況。
- ・更生保護女性会：高齢者の再犯が多く、特に女性が多い。話を聞くと貧しくて万引きを繰り返しているのではなく、寂しさが問題になっていたケースがあった。万引きを繰り返すと家族が自分の方に向けてくれる。家族がいても身元引受人になってくれないケースもある。
- ・更生保護女性会：家族と上手くいかない、家族の本人に対する理解が難しい。本人だけでなく家族を助けられるような支援、女性としての支援など奥深いと思う。アットホームな家族からは犯罪は起こりにくい。
- ・更生保護女性会：再犯の万引きは病気と感じる。そういう支援も必要だと思う。
- ・深山委員：再犯防止のためにも就労支援が大事であるが、中には認知症で犯罪を犯してしまっている方もいる。家族で買い物に行くことなども必要と思う。
- ・尾仲委員：今のお話をお聞きすると就労支援が大事であることを感じた。家族の理解も重要であるが、再犯の原因は色々な要素が絡み合っていると思う。そこに至るまでに何とかできないのかと思う。
- ・社会を明るくする運動明石地区推進委員会（社会福祉協議会）：  
県の方でも関わっていて、犯罪をした人に福祉の手を伸ばさないといけないのかという考えがあったが、人権のこともある。雇用の問題もあるが、住まいの問題もある。刑務所は罪を犯して入るが、食住が確保されているので出るのが不安ということもある。認知症の方は罪を犯した意識はない。認知行動療法などでも対応されている。社協の方でも地域総合支援で出発するが、誰もが安心する地域社会を作っていきたい。また、知的障害が直接再犯に結びつく訳ではない。
- ・社会を明るくする運動明石地区推進委員会（連合まちづくり協議会）：  
神戸刑務所の地元小学校区でもあるので、2カ月に一度刑務所を訪問している。常に面談をしているが、就労支援よりも高齢者が認知や介護を必要な方は特殊な支援体制が取ることが必要である。
- ・尾倉委員：更生支援は奥深いと感じた。今日お聞きした、就労支援、女性としての支援等あったがコーディネートの重要性を感じた。地域総合支援センターの充実の必要性を感じた。

- |  |  |
|--|--|
|  | <ul style="list-style-type: none"><li>・永井委員：再犯率が高いということが分かり、市がもっと更生支援の取り組みに力を入れていくべきと感じた。吹田市の真似ができるか分からないが、協力雇用主へのポイント加算等が出来ないかと思った。守秘義務があって市民への啓発が難しい。高齢者の居場所にどうつないでいくかがキーポイントだと思う。</li><li>・山崎委員：明石市は、こどもを核としたまちづくりを目指しているが、その前に「やさしいまち」であって、更生支援はようやく前に進んできたと思う。条例施行の後の運用が重要なので、皆さんからいただいた意見を生かしていきたい。そして啓発、啓蒙を市民に理解いただいて浸透する明石市を目指していかないといけないと思う。他人事を我がこととして捉えて相手の痛みを分かる社会を目指していきたい。</li></ul> |
|--|--|

明石市市議会議長 様

平成30年3月30日

上記のとおり報告します。

常任委員長 辻本 達也

---